

手編みの綿帽子でがん患者の外出を支援



北上市緩和ケア支援事業ボランティア会（会員28人）から7月14日、すてきな綿帽子が届きました。

平成15年に立ち上げた同ボランティア会は、がん患者さまとその家族がご自宅で穏やかに過ごせるよう、生活支援活動を行っています。平成24年には会員手編みの綿帽子を病院へ届ける活動をはじめ、今年で10回目となります。

同ボランティア会の小原節子会長は、「抗がん剤治療の副作用により毛髪が抜けてしまったがん患者さまに外出時等に役立ててほしい。」と話し、会員手編みの帽子20個を当院の戸貞文院長と及川幸恵総看護師長に手渡しました。

抗がん剤治療中には、脱毛ケアのための帽子が必需品になります。がん治療で毛髪が抜けてしまった患者さまは、ウィッグ（かつら）やバンダナなどを使用しますが、夏に蒸れたり、冬は寒かったり、おしゃれでも縫い目が固く、長時間着用すると痛みが出る場合もあります。

同ボランティア会の綿帽子は、肌に優しく、かぶり心地がいい。さらにデザイン性にも富んでいるため、治療中の患者さまの外出を後押しします。

会員のみなさまの想いも一緒に患者さまにお届けし、安心して治療に専念できるよう患者さまの心に寄り添ったケアに努めてまいります。



未来の看護師からエール



花巻高等看護専門学校の3年生7名が7月11日から21日までのうち6日間、当院で小児実習を行いました。

この日は、「がんばろう済生会」の写真撮影を行っていたため、実習生のみなさんからもエールをもらいました。撮影時には、はにかんだ笑顔や緊張した面持ちで撮影に挑む未来の看護師を「こんな時代もあったね」「かわいいよね」と目元ゆるゆるで見守る先輩看護師の姿がありました。

頑張れ未来の看護師さん！

